「地域とともにある学校づくり」
～学校評価等を活用した学校経営の充実～

平成24年10月25日
高知県土佐市立高岡中学校

高岡中学校の概要

生徒数　４６８名
学級数　　１７学級
教員数　　３３名
事務職員　　５名（土佐市事務支援室）

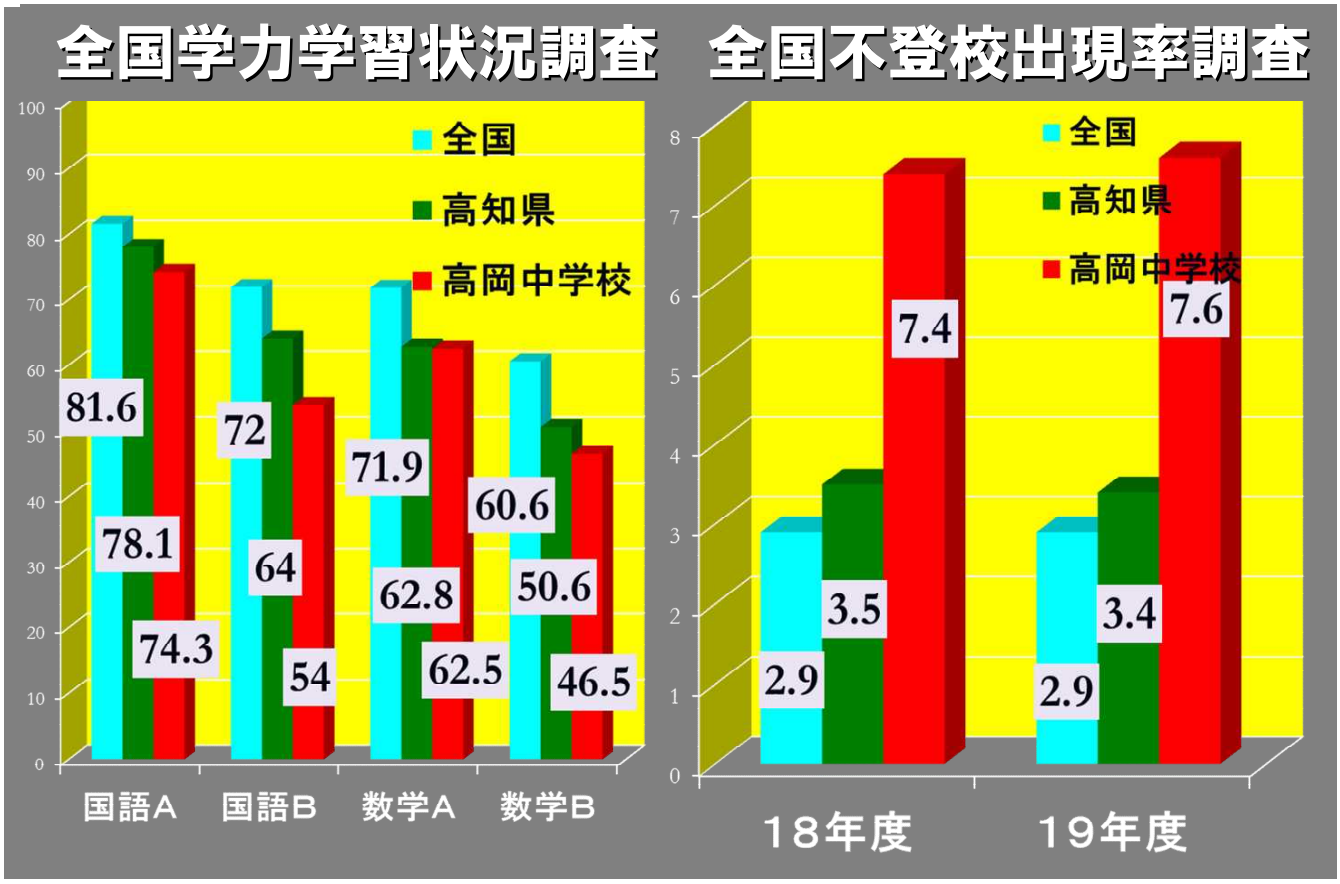
高岡中学校の志
日本をリードする人材を育てよう
（進むべき各分野で一流に）

高岡中学校学校教育目標
優しさ・たくましさを身につけ、学び続ける生徒の育成

平成２０年度～２２年度前期

課題解決から出発した学校評価
～内部評価を活用した
教職員の意識の変革～

平成19年度の本校の姿



教職員から返ってくる言葉

- 学テは国、県のやってること。
- 学テだけでは本当の学力は見えない。
- 不登校生徒は、担任しかわからない。
- 関係機関との連携は、仕事が増える。

↓

意識・組織の弱さが見える

課題に陥った原因分析

1　教師の意識の甘さ

●達成目標を持つ意識の甘さ

●検証を行う意識の甘さ

●見通しを持った仕事の進め方の甘さ

●地域・社会の求めるニーズが見えていない

2　学校組織の弱さ

●教職員相互の力量を高め合う組織づくりの弱さ

●評価結果を生かしたビジョン策定の弱さ

●組織としての研究の弱さ

課題を解決するための考え方

個々の意識の変革

・正確な現状認識

・ゴール・イメージ

・ゴールに向かう創意工夫

全員で取り組む組織づくり

・目的の明確化、コンセンサスの共有

・課題対応型研究組織への改善

PDCAサイクルの考え方で意識・行動を変える

↓

教職員の意識の変革と行動化

↓

生徒の変容

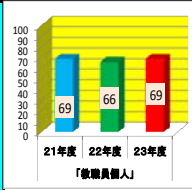
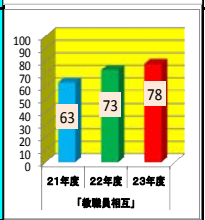
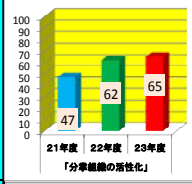
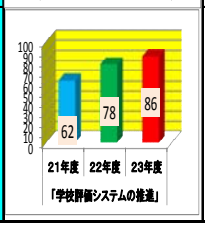
意識変革を図るため学校評価を活用

教職員への確認事項

- ■データを基にした正確な現状認識
- ■取り組み指標の明確化（数値化）
- ■検証できるデータの作成
- ■検証後、改善の手だてを考える

各取組で、本校の課題解決に繋がるような明確な指標を定め学校評価として公表する。

学校評価書

分野	評価項目	評価判断基準	達成指標	具体的取り組み	達成結果・考察	自己評価	学校関係者所見	項目評価	次年度の方向
7 組織運営	（教職員個人の意識の変革） 教職員個人意識を通して学校組織活性化が行われているか	学校組織に関する意識調査の中の「教職員個人」に関するアンケートによる肯定的評価率で判断。 ・肯定的評価85%以上(A) ・肯定的評価70%以上(B) ・肯定的評価55%以上(C) ・肯定的評価40%以上(D) ・肯定的評価40%未満(E)	23年度は肯定的評価率69%、否定的評価率2%であった。 **24年度は肯定的評価率72%以上を目標とする。**	○課題項目に対してワークシートを活用した改善。 ○コンセンサスを高めるための学校改善プラン等の掲示物による意識づけ。 ○校内研修の推進	基盤づくり部が集計し、課題項目については教職員委改善アンケートを行う。。校内自己評価委員会で考察。校長がグラフ化。	A B C D E		A B C D E	
	（教職員相互間の連携向上） 教職員相互間意識を通して学校組織活性化が行われているか	学校組織に関する意識調査の中の「教職員相互」に関するアンケートによる肯定的評価率で判断。 ・肯定的評価85%以上(A) ・肯定的評価70%以上(B) ・肯定的評価55%以上(C) ・肯定的評価40%以上(D) ・肯定的評価40%未満(E)	23年度は肯定的評価率78%、否定的評価率3%であった。 **24年度は肯定的評価率81%%以上を目標とする。**	○課題項目に対してワークシートを活用した改善。 ○コンセンサスを高めるための学校改善プラン等の掲示物による意識づけ。 ○コミュニケーションを大切にした職場環境づくり。	基盤づくり部が集計し、課題項目については教職員委改善アンケートを行う。。校内自己評価委員会で考察。校長がグラフ化。	A B C D E		A B C D E	
	（校務分掌組織の活性化及び改善） 校務分掌意識を通して学校組織の活性化が行われているか	学校組織に関する意識調査の中の「校務分掌」に関するアンケートによる肯定的評価率で判断。 ・肯定的評価85%以上(A) ・肯定的評価70%以上(B) ・肯定的評価55%以上(C) ・肯定的評価40%以上(D) ・肯定的評価40%未満(E)	23年度は肯定的評価率65%、否定的評価率10%であった。 **24年度は肯定的評価率68%%以上を目標とする。**	○課題項目に対してワークシートを活用した改善。 ○校務分掌の効率化・能率化の推進。 ○モチベーションを高める主任の活用。	基盤づくり部が集計し、課題項目については教職員委改善アンケートを行う。。校内自己評価委員会で考察。校長がグラフ化。	A B C D E		A B C D E	
	（学校評価システムの推進） 学校評価システムの意識を通して学校組織の活性化が行われているか	学校組織に関する意識調査の中の「学校評価システム」に関するアンケートによる肯定的評価率で判断。 ・肯定的評価85%以上(A) ・肯定的評価70%以上(B) ・肯定的評価55%以上(C) ・肯定的評価40%以上(D) ・肯定的評価40%未満(E)	23年度は肯定的評価率86%、否定的評価率1%であった。 **24年度は肯定的評価率89%以上を目標とする。**	○課題項目に対してワークシートを活用した改善。 ○保護者への情報提供の工夫・改善	基盤づくり部が集計し、課題項目については教職員委改善アンケートを行う。。校内自己評価委員会で考察。校長がグラフ化。	A B C D E		A B C D E	

意識変革に効果の高かった取組

〇学校組織アンケート及び改善シート
（学校評価の組織運営の項目で評価）
〇学習規律の定着
（授業改善の項目で評価）
〇学級育成プログラムの実施
（居場所のある学級づくりの項目で評価）
〇生徒会活動の活性化
（自主活動の活性化の項目で評価）
〇誇りに思える学校行事づくり
（魅力的な学校づくりで評価）

学校組織に関する意識調査

	設 問 項 目	1そう思う	2だいたいそう思う	3どちらともいえない	4あまり思わない	5思わない	記述（意見等あれば書いてください）
教員個人	1，自分は、校務分掌に取組む際、前年度の反省を生かすようにしている。（前年度の反省を生かした個の取組）						
	2，自分は、学校運営全体を考えて教育活動に取組んでいる。（学校運営全体の意識）						
	3，自分は地域や保護者などの学校を取り巻く外部の存在を意識して教育活動を行っている。（外部を意識した個人の取組）						
	4，教育活動の中で自分の個性や専門性を生かせるような場面がよくある。（個の能力の発揮）						
	5．自分は、自らの教育活動を振り返り、課題を見出す機会を積極的につくっている。（個人の教育活動の振り返り）						
	6，自ら目標を設定する際に、「学校教育目標や重点目標」を考慮している。（ビジョンを考慮した個の目標）						
	7，自分の取り組みは、校内の教育活動全体に生かされている。（個の取組の全体性）						

ワークシート例

発言できる雰囲気づくりを目指した反省と手だて

実施日　平成　　年　　月　　日

1　達成すべき項目の確認

項目	教職員の協働性を目指した組織づくり
課題	「発言できる雰囲気づくり」

2　現状把握

あなたは，発言できる雰囲気づくりの現状をどのように把握していますか

3　課題解決の手だて

どのような姿を目指しますか	
何をするのですか	
どのような方法で取り組みますか	
達成状況を把握する基準・指標は	

――――――――――後日調査――――――――――

4　振り返り

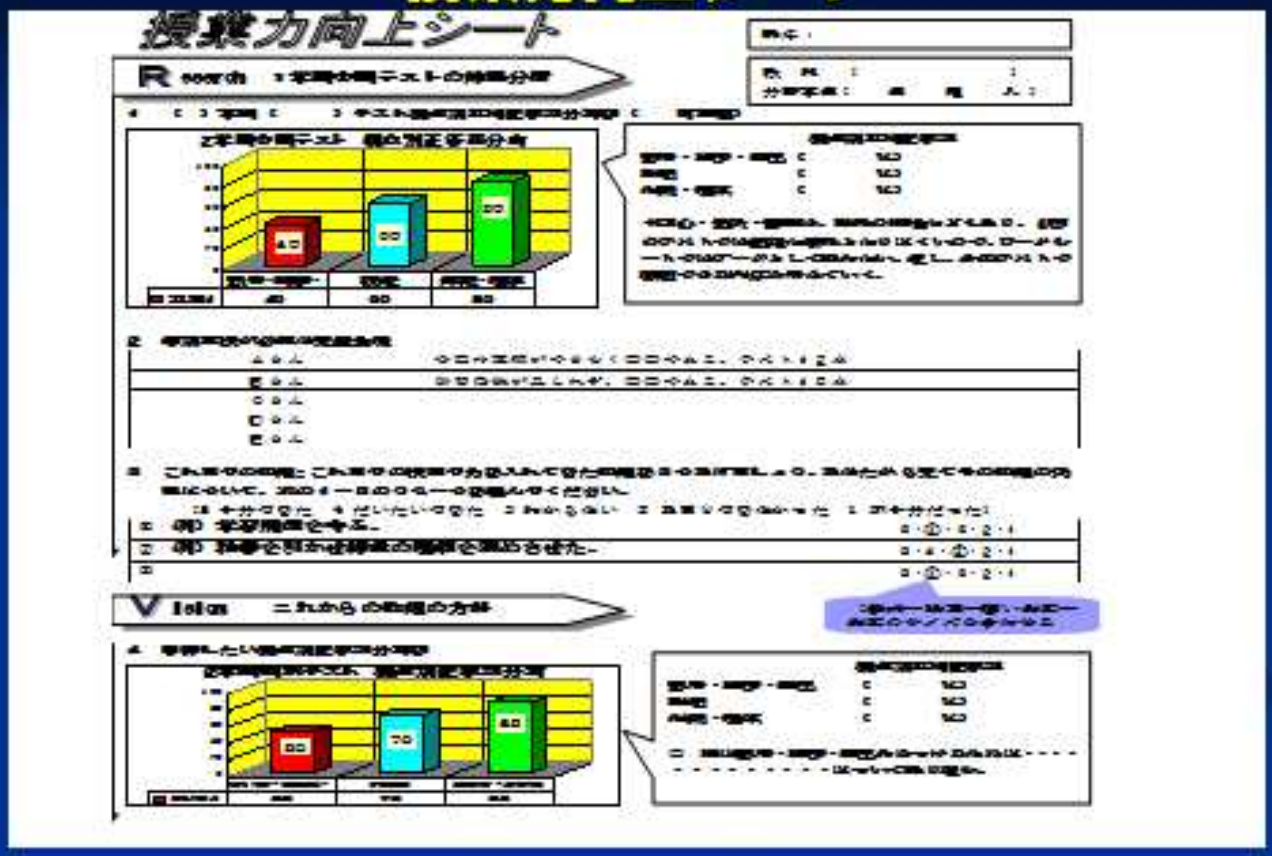
発言できる雰囲気づくりの達成はできましたか。（○をつけてください）
1　自分としては，十分な取り組みを行い，意識の変化ができた。
2　自分としては，ある程度の取り組みを行い，多少の意識の変化ができた。
3　自分としては，少ししか取組みができず，意識の変化は少なかった。
4　自分としては，取組みができず，意識の変化が起きなかった。

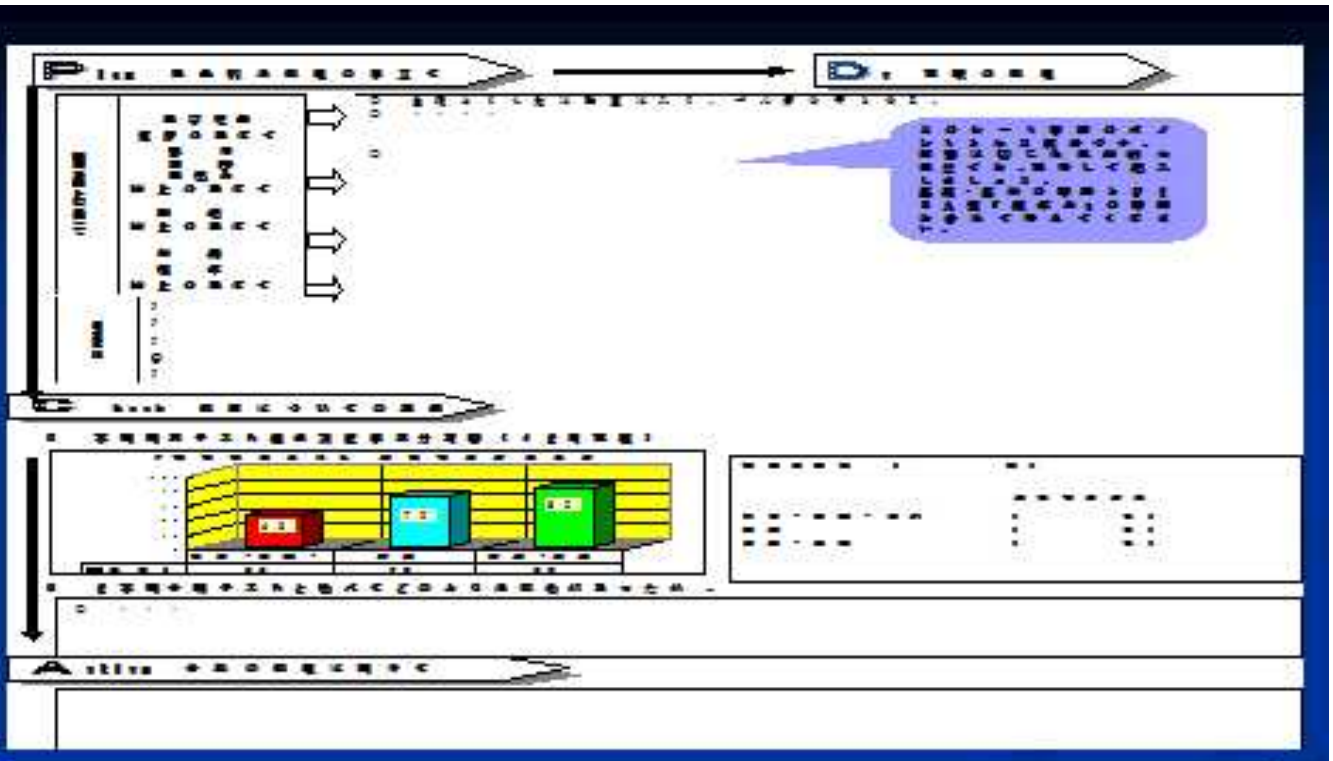
学級育成プログラム（学級の雰囲気が変化）

生徒会活動の活性化（学校の雰囲気が変化）

魅力的学校行事（学校の雰囲気が変化）

授業力向上シート





様々な取り組みで、全ての教職員が考えること、同じ取り組みをすること大切にした

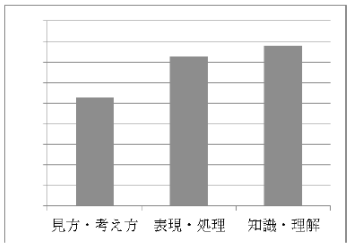
授業力向上シート

氏名：

教　科　（　　数学　　）
分析学年（　年組　　人）

Reserch　（1）学期（期末）テストの結果分析

1　（1）学期（期末）テスト観点別平均正答率分布図（　７月実施）



観点別平均正答率

見方・考え方　（　　%）
表現・処理　（　　%）
知識・理解　（　　%）

＊基本的な力はついているがそれに伴った応用問題の解決ができていない。文章問題というだけで拒絶する生徒がおり、５名が無回答であった。

2　個別支援が必要な児童生徒

A	まじめに授業に参加し、ノートも丁寧にとるが、文章を読み取ったり、理解することが難しく、時間もかかる。
B	標準学力調査の結果が5.3であり、同じ内容を理解していくのは難しい。板書も書くことが多いとどこを書けばいいのかわからなくなる。
C	やる気はあるが定着するのに時間がかかる。本人は努力しているが、結果が出ず伸び悩んでいる。

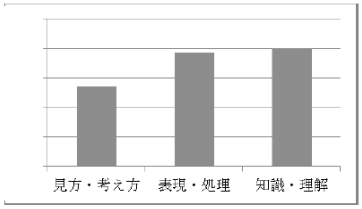
3　これまでの取組：これまでの授業で力を入れてきた取組を３つあげましょう。あなたから見てその取組の効果について、次の１～５のうち一つを選んでください。

（5 十分できた　4 だいたいできた　3 わからない　2 あまりできなかった　1 不十分だった）

①　基本となる計算問題を反復練習する	5・(4)・3・2・1
②　計算の過程を意識して書くようにする	5・(4)・3・2・1
③　文章問題は図や表、線分図を使って解決する	5・4・(3)・2・1

Vision　これからの取組の方針

4　目指したい観点別平均正答率分布図



観点別平均正答率

見方・考え方　（　　%）
表現・処理　（　　%）
知識・理解

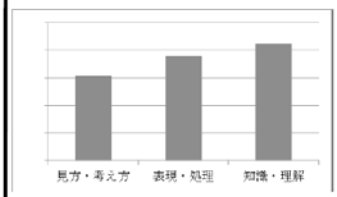
＊基本的な計算力は引
で維持させたい。今後
ぜ？」を大事にしたり、
業を増やすことで、考

Plan　具体的な取組の手立て → Do　実際の取組

授業力向上の手だて	学習規律定着の手だて	○ 忘れ物をした生徒が授業に参加できるようにサポートする。 ○ 子どもの発言に対して肯定的評価を行う。 ○ 書く、見る、聞く、考える一つ一つの行動にメリハリをつける。 ○ 生徒を混乱させない発問や支持を心がける。
	思　考 判　断 表現力 向上の手だて	○ 生徒からさまざまな考え方が引き出せるような課題を仕組む。 ○ 生徒が主体的に活動し、自分の考えを発表できる雰囲気をつくる。 ○ グループ活動を通して、自分の考えを伝える場面をつくる。
	技　能 向上の手だて	○ 反復練習を行い、定着を図る。 ○ 計算の過程を重視する。
	知　識 理　解 向上の手だて	○ 重要な語句や性質を繰り返し使うことで定着を図る。 ○ 大事な定理や性質は子どもが自ら発見できるように仕組む。
個別支援	A	加力補習へ参加させ、計算練習を繰り返すことで解けたという達成感を味わせる。
	B	ノート指導の徹底と加力補習へ参加させ、マンツーマンで指導する。
	C	わからないことは聞きに来るので丁寧に対応し、自信をつけさせる。加力補習へも意欲的に参加するので達成感を味わせる。

Check　取組についての評価

5　（2）学期（期末）テスト観点別正答率分布図（１２月実施）



観点別平均正答率

見方・考え方　（　　%）
表現・処理　（　　%）
知識・理解　（　　%）

＊家庭学習で反復練習をしたり、証明は図や根拠を大切にすることで性質や語句の定着が見られた。

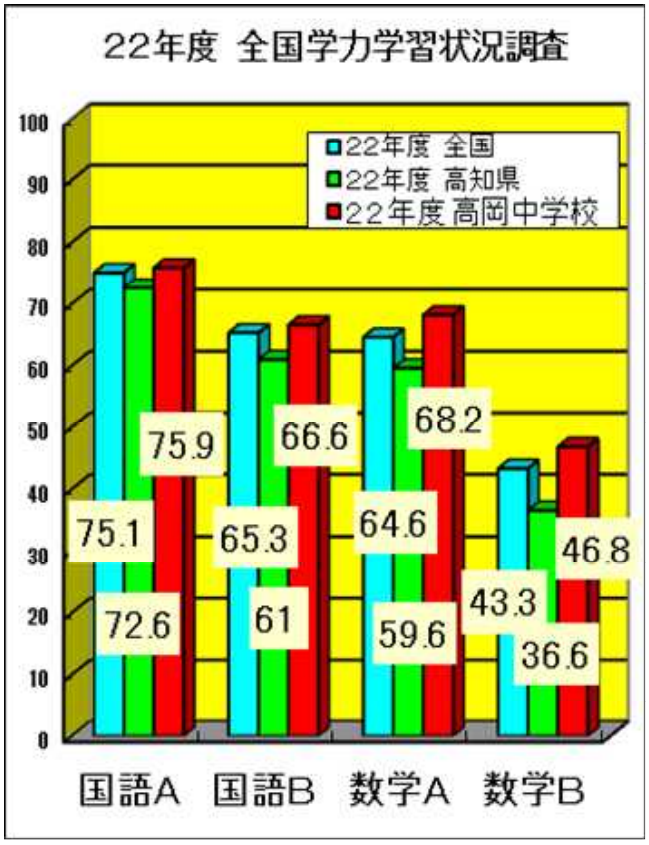
6　（1）学期（　期末　）テストと比べてどのような変化があったか 。

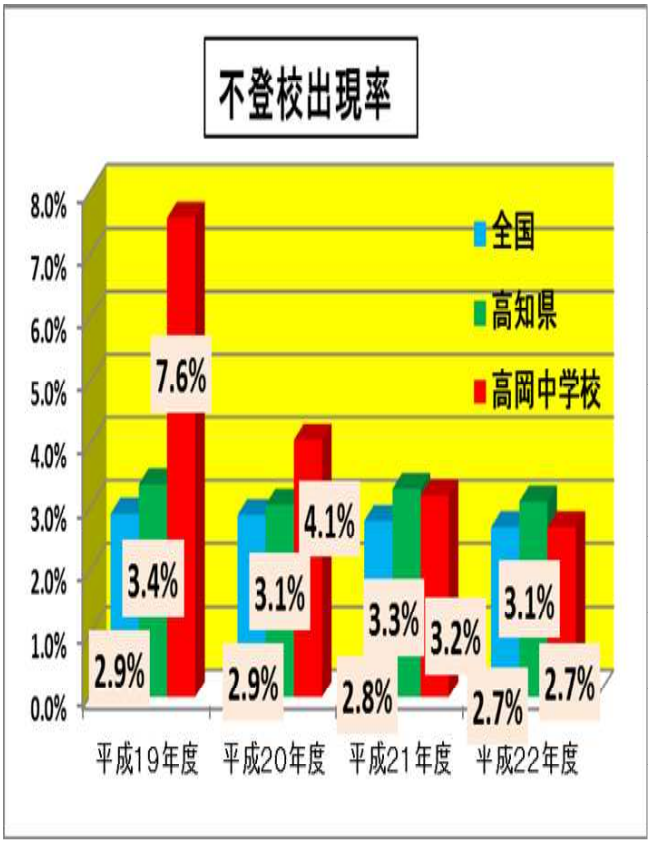
○ 過程を大切に扱ってきたことで、図形の証明に入っても根拠を述べて説明できる生徒が増えてきた。等しい角や辺にしるしをつけることで完全証明はできなくても途中までででも書いてみようとする生徒が増えてきたことが見方・考え方のポイント上昇につながったように思う。

Action　今後の取組に向けて

○ 今回はこちら側が課題を与えて取り組ませることで、定着が図られたが、今後は自分で課題を見つけて取り組めるようにアドバイスしていく。図形の分野では図が課題解決の重要な鍵となるので板書や説明の際にも図を用いるようにする。基本的な事柄は小テストなどをして定着状況を把握していく。

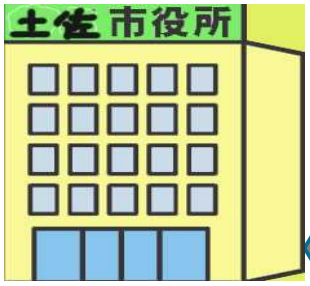
取組の結果、課題が解消





保護者、行政には、情報の発信としてだけの学校評価であった

課題解決のため、学校評価を活用しPDCAサイクルで取り組む



課題解決を目指し、内部評価を活用し学校経営の改善

平成22年度後期～24年度

信頼される学校づくりをめざした学校評価等の活用

～地域貢献を目標に、生徒の活躍の場をつくる～

地域貢献に取り組み、信頼を高める働きかけ

今までの取り組みの継続と、地域に目を向ける働きかけ

信頼される学校を目指し、地域との関係づくりで、更なる学校経営の充実

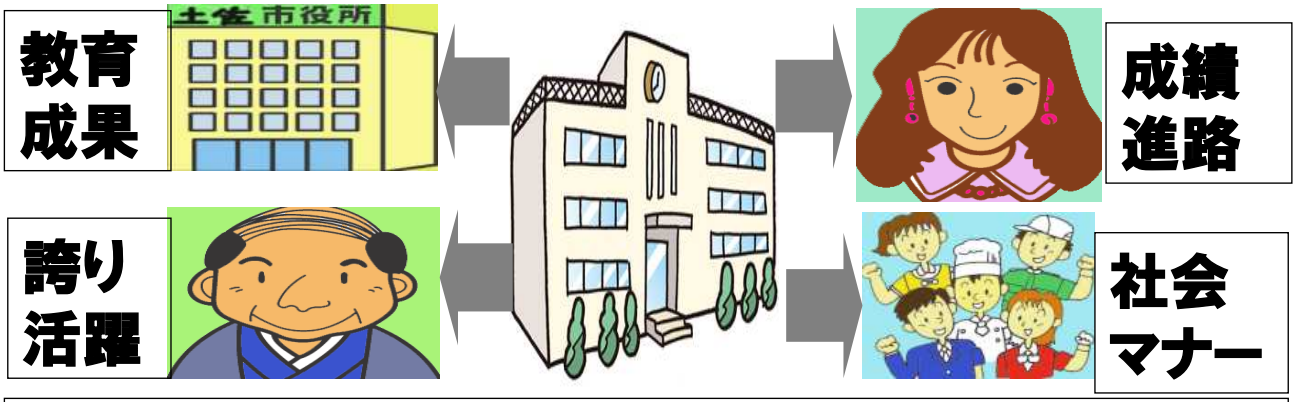
地域との関係づくりの考え方

- お互いがメリットのある関係づくり
- お互いが高まり合う関係づくり
- お互いが助け合える関係づくり

そのためには

- お互いがニーズを知ることが大切
- お互いが刺激し合う情報発信が大切
- お互いが助け合える場所の設定が大切

本校と地域の相関関係とニーズ



信頼される学校を目指すには、それぞれのニーズに答えを出すことが必要。

取り組みで生徒が育ち、活躍の場が広がる。学校のイメージアップにも。

「待っていても情報は来ない！」
学校評価は地域と話の場を持つ効果的材料

- 学校関係者評価委員会での話し合い
- 文書やホームページで学校評価の発信
- 行政、OB会、PTA総会、小学校説明会等で学校評価内容を中心にプレゼン。
- 市の広報誌を活用し宣伝。
- 地域・行政のキーパーソンとの雑談からニーズの収集

生徒が活動する場が生まれる

美術部部活動で作成したエコカルタを見た消防等から制作依頼

科学実験部
企業にロボット製作を相談したことから連携に発展。放課後子ども教室にも出前

吹奏楽部
２０年前の部活発足時の楽器寄付から、地域に恩返し

家庭科の授業でトイレットペーパー入れを作成し、地域に配ることから発展。
土佐市主催のエコカーニバルに古着を使った作品づくりの出店依頼

学校行事で保護者との協働を企画。
環境浄化活動（クリーン・カンペーン）

課　　題

１　保護者に学校の姿を伝える難しさ

・学校の壁の意識が強い

・保護者ニーズ（学校全体より、我が子）

２　地域への働きかけの難しさ

・地域ニーズ収集の場づくりの工夫の弱さ

・ニーズに応える取り組み時間の限度

３　学校関係者評価委員の活用の弱さ

・学校経営のパートナー、ブレーンとして相談できていない校長の弱さ

今後の思い

　集権から分権の流れは教育界も同じで、行政ニーズだけでなく地域ニーズにも応えながら、地域とともにある学校づくりが問われている。

　高岡中学校は、あいさつ運動や地域貢献などを通して、地域に信頼されると同時に、コミュニティーの拠点となる学校を目指していく。